



■ テーマ名

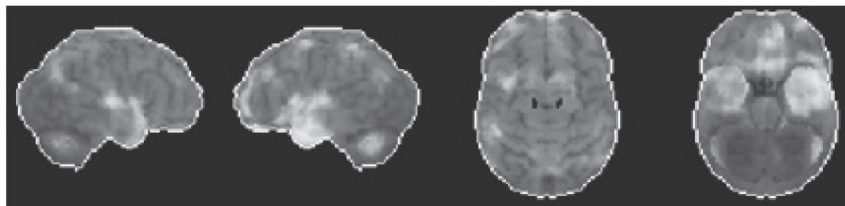
非典型的な症状を呈する希少認知症の診断、評価、リハビリテーション

■ キーワード

認知症、非健忘型アルツハイマー病、logopenic aphasia、神経心理検査

■ 研究の概要

現在アルツハイマー病、レビー小体型認知症といった典型的な変性性認知症に関しては、少なくとも専門医の範囲では、一定の意見や知識の集約がなされていますが、言語障害優位型のアルツハイマー病等の、非典型的な認知症については、その診断や高次機能障害の様式、リハビリテーション等の方法論は確立しているとは言い難いのが現状です。これらの患者さんの、脳画像・神経心理検査等を集積してその特徴を見出し、リハビリ・介護等の対応をより洗練させ、出来る限りエビデンスに基づいたものにしていくことを目標としています。



■ 他の研究／技術との相違点

多くの研究が比較的典型的なアルツハイマー病やレビー小体型認知症を対象にしているのに対して、介護や対応の知見が集積されていない希少症例を対象にしています。

■ 今後の展開、実用化へのイメージ

これらの比較的患者数の少ない患者様の診断・評価・リハビリ法のエビデンスの集積を目指します。

■ 関連業績（特許・文献）

現在、神戸大学認知症疾患医療センター・先端医療センターと共同で、科学研究費に採択された予算を使った研究は終了し、現在解析を行っています。

■ 研究者から一言

希少例非典型的な患者様は、典型例の患者様に比べても、評価診断が遅れ、その後のリハビリもエビデンスが不足しており、一般的な患者様より更に不利益を得ています。これらの患者様の一助になればと思っています。